

2026年 2月 18日

**【XCR スプリントカップシリーズ 第2戦 / 北海道千歳市 近郊】
季節外れの暖気に包まれた第2戦は、ヨコハマタイヤ勢が開幕戦に続き5クラス中4クラスを制覇!!**

クロスカントリーとSUV 車両で競われる「XCR スプリントカップシリーズ」は2月15日(日)に第2戦が開催され、XC-2クラスにタイから参戦する Mana Pornsiricherd 選手/Kittisak Klinchan 選手(TOYOTA HILUX FAST FORWARD)が嬉しい初優勝を飾ることに成功した。

1月に開催された開幕戦と同じく、北海道千歳市の新千歳モーターランドを拠点に開催された第2戦。SS(スペシャルステージ)はクロードコース2箇所と、専有した林道2箇所を設定。クロードコースと林道1箇所を2回ずつ、林道1箇所は1回走行する全7本、合計距離9.47kmで競われた。

2月中旬という厳冬期の北海道だが、競技当日は季節外れの暖気に包まれた。千歳市の最低気温は平年値が氷点下12.2℃であるが、この日は午前1時に氷点下0.6℃を記録したものの、そのあとは気温が上昇してプラスへ転じ、日中は4.7℃にまで上昇。夜明け前には小雨も降ったことから路面の水や雪は部分的に解け、難しい路面コンディションの一戦となった。

その影響はオープニングのSS1「SHIN CHITOSE A (0.80km)」から見られ、併催される北海道ラリー選手権を4WDターボ車で走る強豪からも、早々にリタイヤを喫する選手が現れた。そんな中で快走を見せたのが開幕戦で準優勝の Mana 選手組、SS1と2で連続ステージベストを刻むと、SS4も制してクロードコースの4本を終えてクラストップに立つ。これを追うのが開幕戦の覇者である番場彬選手/藤田めぐみ選手(CUSCO YH ジオランダー HILUX)で、横浜ゴムのSUV用スタッドレスタイヤ「iceGUARD SUV G075」を装着する2台がワン・ツー・フォーメーションを構築して競技を折り返した。



Mana Pornsiricherd 選手/Kittisak Klinchan 選手



XC-2クラス 優勝 | TOYOTA HILUX FAST FORWARD

クロードコースの路面は、圧雪アイスバーンだったものが気温上昇によって、時間とともにザクザクのコンディションへ変化した。後半のリートセクションではほとんどころに水たまりもある難しさだったが、SS5~7のハイスピードな林道ステージもタフなコンディションが予想される中で競技は後半へと進んでいく。

注目の林道ステージ 1 本目となる SS5「KASUGA 1 (2.43km)」、道の両側にはこの時期なら除雪した雪が積みあがった雪壁があるのが一般的だが、季節外れの暖気も影響して雪壁はほとんど見られない。走破性能に優れる SUV ではあるものの、ワンミスでコースを外れるとリタイヤに直結する可能性が高い状況だ。

そんな中で速さを見せたのが番場選手組、SS5 で 2 分 01 秒 9 のステージベストをマーク。Mana 選手組は 2 番手タイムで、番場選手組が差を詰めた。しかしリピートの SS6 で両クルーは若干タイムが伸び悩み、Mana 選手組はトップを守るも番場選手組は 3 番手にドロップ。最終の SS7「UENAE KITA (2.01km)」で上位 3 台による三つ巴の優勝争いは決着する運びとなったが、先行車両がトラブルに見舞われて道を塞いでしまい、スルー扱いとなったことから順位を入れ替えるには至らず。



XC-2 クラス 3 位 | CUSCO YH ジオランダー HILUX



XC-2S クラス 優勝 | YH 三菱エクリプスクロス PHEV

この結果、XC-2 クラスは Mana 選手組が待望の初優勝、首都バンコクは 2 月の平均最高気温が 30℃超、最低気温も 25℃ほどという南国・タイ育ちのクルーが、アイス&スノーラリーで見事な走りを披露した。また、番場選手組は 3 位表彰台を獲得した。

XC-2S クラスでは、浅井明幸選手／古川和樹選手(YH 三菱エクリプスクロス PHEV)が開幕二連勝を飾り、大内龍也選手／小野昂選手(YH IG80 ジオランダー SF キャミ)が準優勝で続いて、「iceGUARD 8(iG80)」を装着するヨコハマタイヤ勢がワン・ツー・フィニッシュ。

さらに XC-1 クラスの惣田政樹選手／猿川仁選手(ジオランダー ブラ V・SF デリカ D5)と XC-3S クラスの大塚祐樹選手／前花亮平選手(トゥーザコア メープル ジオランダー ライズ)も優勝を飾り、シリーズ戦の 5 クラス中、4 つのクラスをヨコハマタイヤ勢が制する大活躍となった。

さらに今回は、若手や初心者ドライバー向けにクロード部門の XCR チャレンジクラスが設けられ、5 台がエントリー。そのうちの 3 台がヨコハマタイヤを装着、武岡忍選手／内川征治朗選手(ジムニーソーダチャレンジヨコハマタイヤ)が優勝を飾り、幅広い車種と選手層でヨコハマタイヤ装着車が強さを見せた。

- ・横浜ゴム モータースポーツ Facebook : <https://www.facebook.com/YRCmotorsports>
- ・横浜ゴム モータースポーツ X : https://x.com/Yokohama_sport
- ・横浜ゴム モータースポーツ Instagram : https://www.instagram.com/yokohama_motorsports/

※本リリース、ならびに上記 SNS に掲載している画像は、ご転載いただけます。

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株）タイヤ消費財商品企画部戦略企画グループ
担当：安藤
TEL：080-9029-7840 FAX：0463-63-0561